

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 2 2 6

2 0 1 2 年

5 ~ 6 月号

行 事 案 内

5 月手賀沼探鳥会とカウント

5 月の手賀沼探鳥会は 5 月 13 日の「Enjoy 手賀沼! 第 23 回バードウィーク手賀沼探鳥会」として行います。詳細は 2 頁をご覧ください

交 通 自家用車分乗です。分乗者は一人 2,000 円を運転者にお渡してください。申込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。

申 込 染谷迪夫まで
Tel: 04-7182-3972

担 当 染谷、小玉

6 月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 6 月 10 日 (日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前 9 時
案 内 いよいよ夏鳥の季節です。この時期はオオヨシキリのギョギョシ、ギョギョシの賑やかな囀りや水鳥の子育て、コアジサシやアマサギなどの夏鳥が観察できます。期待のヨシゴイに会えるかもしれません。じっくり観察しましょう。

解 散 正午
担 当 野口 (紀)、小林 (寿)

御 前 山 探 鳥 会

期 日 5 月 4 日 (金・祭) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前 7 時
案 内 茨城県の常陸大宮市と城里町にまたがる御前山県立公園を探鳥します。水戸徳川家によって伐採が禁じられていたため、この一帯には豊かな自然が残っています。常緑樹と落葉樹の入り混じる樹海には 100 種以上の野鳥がいるとされています。

持 物 観察用具、雨具、昼食 (途中購入可)

奥 日 光 戦 場ヶ 原 探 鳥 会

期 日 5 月 26 日 (土)、27 日 (日)
集 合 我孫子駅北口 午前 7 時
案 内 5 月の風に吹かれながら広い奥日光戦場ヶ原を歩きます。草原ではノビタキ、ホオアカ、カッコウの声を楽しみ、林間ではゴジュウカラ、キバシリなどを探します。二日目は、ルリビタキ、メボソムシクイなど山の鳥を見たいと思います。

交 通 進和観光 小型バス
宿 舎 休暇村 日光湯元
Tel: 0288-62-2421

費 用 23,000 円 (昼食は各自負担)
持 物 観察用具、雨具、防寒具
定 員 20 名 (早めにお申し込みください)
申 込 木村稔まで
Tel: 04-7182-7958
担 当 木村、松本

笹川・印旛沼探鳥会

期 日 6月17日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 葦原から円を描くように飛び出して囀るオオセッカ、笹川周辺(利根川下流域)は日本で数少ない繁殖地として有名です。その他コヨシキリ、オオヨシキリ、コジュリンなど小鳥たちのにぎやかな囀りが楽しめます。そして印旛沼では葦原を飛び交う多くのヨシゴイを観察します。又時折出現するサンカノゴイ、水田の中から頸だけ出した姿も期待できます。

交 通 自家用車分乗です。分乗者は1人1,500円を運転者にお渡し下さい。申込の際、自家用車提供可能な方はその旨をご連絡下さい。

持 物 観察用具、雨具、弁当・飲物(途中購入可)

申 込 北原建郎まで
Tel: 04-7183-4683

担 当 北原、佐々木

富士山奥庭・朝霧高原探鳥会

期 日 6月30日(土)、7月1日(日)
集 合 我孫子駅北口 午前8時
案 内 奥庭、御中道では、初夏の高山(奥庭で標高2,200m)の野鳥ルリビタキ、メボソムシクイ、ウソ、キクイタダキ、ホシガラス等を観察し、日没前ヨタカを観察します。富士山5合目の御中道(標高2,300m)では野鳥の他にハクサンシャクナゲ、メイゲツソウ、オンタデ、ヤマホタルブクロ、コケモモ等の高山植物も楽しめます。朝霧高原(標高800m)では、野の鳥ノビタキ、ホオアカ、セッカ、アカモズを探してみましょ。もちろん、朝霧高原では野の花も楽しめます。

交 通 小型バス
宿 舎 富士山奥庭荘
Tel: 0555-82-2910

費 用 20,000円程度(宿泊・交通・保険代)

持 物 観察用具、雨具、防寒具、洗面用具、常備薬等

定 員 20名

申 込 鈴木静治まで
Tel: 04-7186-4191

担 当 鈴木、六角

【Enjoy手賀沼！ 第23回バードウィーク手賀沼探鳥会】

5月10日～16日はバードウィークです。我孫子市鳥の博物館と当会の共催で恒例の手賀沼探鳥会を実施します。手賀沼親水広場で開催される「Enjoy手賀沼！」(Enjoy手賀沼実行委員会主催)に併せた行事です。探鳥会には60名以上の市民の参加が見込まれ、当会は探鳥会の実施面を担当しますので人手が必要になります。会員多数のお手伝いをお願いします。

期 日 5月13日(日) 雨天中止
集 合 手賀沼親水広場 芝生 午前8時30分
担 当 全幹事
案 内 6班編成で、順次出発、ふれあい道路を東進し、高野山新田の信号の先で右折、遊歩道へ入り、滝下広場から遊歩道を戻るコースとします。班毎に鳥合わせして解散です。原則12時終了の予定です。雨天の場合は、我孫子市鳥の博物館見学会(入場無料)を行います。館内の案内、説明等を会員が手伝います。確認は7時30分以降「鳥博」(Tel: 04-7185-2212)まで。

行 事 報 告

2 月手賀沼探鳥会

調査日時 2012.2.12 9:00~12:00

晴 北西の風 気温 7

北西の風が吹く中で、泳いでいる水鳥たちは少なく、確認できた鳥も昨年よりちょっと少ない探鳥会でした。でも、ひどり橋のたもとでは、いつもは草むらの中にいてなかなかお目にかかれぬクイナがみんなの目の前で岸辺を歩くだけでなく、泳ぐ姿を披露してくれました。近くにはバン、オオバンもいてクイナ仲間の全員集合でした。<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ミコアイサ、ミサゴ、トビ、ノスリ、ハヤブサ、クイナ、バン、オオバン、タゲリ、カワセミ、ハクセキレイ、タヒバリ、モズ、ツグミ、ウグイス、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 33 種

<探鳥班> 佐々木隆、大久保陸夫、首藤祐吉、中野久夫、相良直己、松田幸保、田中恒雄、栗田励、桑森亮、肥後邦彦、常盤孝義、船津登、六角昭男、猪爪敏夫、天野正臣、天野睦子、小坂忠久、西嶋昭生、松本勝英、松本葉子、川村美恵子、石渡成紀、武藤康之、岩田孝之、岩田マキエ、山田哲生、間野吉幸、谷山晴男、宮下三禮、小玉文夫、鈴木静治、野口隆也、渡辺政一、古出洋子(担当)浅井久 参加者 35 名

<カウント班> 北原建郎、田中功、染谷迪夫
調査日時 2012.2.12 9:00~12:10

晴 風中~強 気温 4

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	6	1	7
ハシロカイツブリ	1	0	1
カンムリカイツブリ	5	7	12
カワウ	12	27	39
タヒバリ	1	1	2
コサギ	2	5	7

アオサギ	5	3	8
コブハクチョウ	6	7	13
マガモ	0	64	64
カルガモ	82	44	126
コガモ	288	0	288
キンカシロ	0	2	2
ミコアイサ	3	4	7
バン	1	0	1
オオバン	13	15	28
タゲリ	0	20	20
コリドビ	5	0	5
合計	430	200	630

3 月手賀沼探鳥会

調査日時 2012.3.11 9:00~12:00

曇のち晴 弱風 気温 9

雨をまぬがれた探鳥会で、最初は寒かったです。後半は久しぶりの太陽の温もりを感じることができました。カモ類をはじめ全体に鳥が少ない印象でしたが、鳥合わせでは 30 種を越えていました。鳴きながらの飛行や攻撃飛翔をしたハヤブサ、死んだフナをつつきまわすバンの姿が印象に残りました。<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ミサゴ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、キジ、バン、オオバン、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 33 種 番外カワラバト

<探鳥班> 肥後邦彦、田中悟、栗田励、橋本了次、金子幸子、川越久枝、間野吉幸、谷山晴男、田中恒雄、常盤孝義、小玉文夫、桑森亮、柴本三弘、柴本法子、田丸喜昭、六角昭男、北原建郎、猪爪敏夫、石飛勇次、石飛悦

子、野口隆也、小林博之、村松寿夫、鈴木静治、宮下三禮、佐々木隆、西嶋昭生、船津登、武藤康之、石渡成紀、成田奈穂、成田遥、成田菜、佐藤弘美、岩田孝之、野口紀子、小林寿美子、古出洋子、栗原佑子（担当）松田幸保 参加者 40名

<カウント班>木村稔、田中功、染谷迪夫、蒲田知子

調査日時 2012.3.11 9:20~12:45

晴 風中 気温 8

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	12	4	16
カンムリカイツブリ	8	0	8
カワウ	8	24	32
タヒギ	0	3	3
ゴサギ	15	2	17
アオサギ	0	4	4
コブハチョウ	19	3	22
マガモ	0	48	48
カルガモ	23	27	50
コガモ	97	10	107
オカヨシガモ	8	0	8
オナガガモ	0	45	45
ホシヅメ	0	2	2
キンクロヅメ	0	3	3
ミコアイサ	1	0	1
ハシ	2	0	2
オハシ	40	45	85
タケリ	0	20	20
ヨリヅメ	0	1	1
合計	233	241	474

40周年記念行事井頭公園探鳥会

2月5日

（今年の井頭公園探鳥会は40周年記念行事の一環として、一般市民の方から26名の参加を得て行いました。市民参加の方から探鳥会参加の感想文が寄せられましたので、会員の感想文と合わせて掲載します）

一番心にのこった鳥はミコアイサ

村上瑠奈（我孫子第2小学校4年）

なぜ今回バードウォッチングに参加したかということ、お母さんが仕事やきプラザに行った時、ポスターを見たからです。お母さんはちょっと興奮していて、これ行こう行こう！とさそわれました。

井頭公園についた時に、はじめにみた鳥は水鳥でした。水鳥にはいろいろな種類があってびっくりしました。その中で一番心にのこった鳥はミコアイサ（パンダガモ）でした。ミコアイサはちょうどその時ごはん中だったのか、よく水の中にもぐっていました。カモもその時ごはん中だったのかかわらないけれど地上にたくさんいました。中でも近づいても逃げないカモもいました。あと、水が凍っていて、カモが歩いても凍っているのですべていた所がかわいかったです。次にピンズイをみました。初めて名前を聞いた鳥です。わたしはあせってしまって、自分の双眼鏡ではどうしても見つけられなくてプロの人の双眼鏡で見ました。ピンズイは緑色で小さくすらっとしていてかわいかったです。私はプロは早くてすごいと思いました。次にカケスを見ました。私はカラスが大好きでカラス科のカケスが見られて、とてもうれしかったです。カケスは目の周りが白くてかわいかったです。これはちょっと内緒なのですが、帰りに公園の人がカケスのきれいな水色の羽を一枚、そっとくれました。とても小さな羽です。大事にするために、お母さんがパウチをしてくれると言っています。最後にカワセミもみました。カワセミは私が思っていたよりもずっと小さくて驚きました。小さくていろいろな色があってとてもきれいでした。帰りのバスで、鳥の種類を一番たくさん見れた数を競争するバードソンでは負けてしまいましたが、いろいろな鳥を見れたので楽しかったです。（でも、勝って賞品の本は欲しかったです。）

（瑠奈さんの感想文に添えられた母親の村上美奈子さんからのお便りです。掲載の順序が感想文と前後しています）

我孫子野鳥を守る会 様

村上美奈子

拝啓

先日は、大変楽しい探鳥会を本当にどうもありがとうございました。

家の近くの田んぼや防風林で野鳥を楽しむことが増えていたので、そろそろ少し本格的な観察にも参加してみたいなと思っていた矢先のイベントでした。

メンバーの方の野鳥に限定されない豊富な自然への知識には感動いたしました。あわせて、ぜひ野鳥を守る会への入会もしたいと思います。(入会申込書を同封いたしました。又入会金も既にお振込みいたしましたので、ご確認いただければ幸いです。)

以下は、娘の書いた感想文の転記です。一部、メンバーの方をプロと書く誤解もあったり、変な文章もありますが、特に修正は致しませんでした。(笑い)

娘は以前「鳥博士になる！」と言っており、将来は自分の家の2階に鳥の博物館を作る構想を私に楽しそうに語ってくれていました。買ってあげた野鳥の本に載っている写真は随分と記憶もしていたのです。けれども、先日の探鳥会では自分では全く鳥を見つけることもできず、探せず、わからず、で実は随分落ち込んでいるようでした。本で見ると、実際に自然の中で鳥を観るのとは、全く別の次元の世界であることを、身体で受け止めてくれれば、親としては嬉しいのですが、

また機会があれば探鳥会にも積極的に参加させていただきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

井頭公園探鳥会に参加して

吉田知之(我孫子市在住)

2012年2月5日(日)

寒いですが、晴れて良かった。この寒い季節だからこそ、多くの鳥達に出会える楽しみがあります。我孫子駅近くの集合場所にて全参加者57名が4班のグループに分けられ、Aグループに配属になる。バスの定員を超えた方たちは自家用車に分乗とのこと、バスに乗車後、本日の説明があり鳥ビンゴが行われ

た。この鳥ビンゴは大盛況で車内彼方此方ビンゴビンゴとの呼び声があがり、そのたびにスタッフの方は景色を汗だくで届けられて、お疲れ様の状態。終了後は、野鳥カードを全員がいただきました。この鳥ビンゴで盛り上がり、車窓から筑波山を眺めたりしているうちに渋滞もなく、予定時間頃に井頭公園に到着。

鳥見亭の二階で常駐指導員の方より鳥情報講話を聴き、探鳥会は4グループに分かれて観察した鳥見数を競うバードソン形式にて行われる。配属のAグループは14名、鳥見亭より左回りにて探鳥開始。どんな鳥達に出会えるか楽しみでしたが、出発してすぐに多くのカモたちが出迎えてくれました。杭の近くに並んで、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモが水上に浮かびながら寝ています。杭の上にはカワウが羽を広げて挨拶をしているようです。池の幅が狭いので、池の中央にいる鳥も近くにいるようによく見えます。ミコアイサが2羽近づいてきました、じっくりと観察です。こんなに近くでよく見られるなんて感激でした。最初から多くのカモたちに出会えて盛り上がりましたが、ゆっくりゆっくりと焦らず足音をたてないで進み、上をきよるきよる見て枝先に鳥がいなか探します。

鳴き声や姿を垣間見ただけでは鳥の種類はまったくわからず、スタッフの方にその都度教えていただきました。メジロ、アオジ、コゲラの鳴き声と言われてもまったくわからずで、あたりをきよるきよるです。そのときコゲラが木に垂直に止まりコッコッと嘴で木を突いているのが観察できました。短い時間でしたが感激です。昼食は釣り池近くのベンチにすわりいただきましたが、天気でも寒さもなく寒さを忘れ良い状態です。早く昼食を終えた人達はもう近くを双眼鏡で探鳥を始めています、何かが見えたとの声が聞こえた時、弁当を持ったまま思わず声の方へ行かれた方がいました。皆さん好きなんですね、微笑ましい光景でした。

昼食を終え再び歩き始めましたが、確認した鳥の数を競うバードソンがあり一種でも増やそうと懸命に鳥を探します。クイナを見たとのことで、アシ原をジーと見つめて待つこと暫し、クイナが出てきました。わずかな

時間でしたが警戒心の強いウイナを観察できました。池を一周し鳥見亭へ戻り、ベランダで鳥合わせを行い41種と番外3種の鳥との出会いを確認しました。今回はキンクロハジロの寝ぼけ眼が見れなかったのは残念でした。あの冠羽はぜったいに寝癡と思われる、キンクロハジロは次回のお楽しみに。

帰路の車中でバードソンの結果発表があり、Aグループが見事勝者になりました。この記念品として40周年記念誌「四季の手賀沼周辺散歩～野鳥と草木と風景と～」の目録をいただきました。

一般の参加者が気軽に参加できる企画を今後も継続していただきたい、今回バスでの楽しい探鳥会は良い思い出となりました。企画をされたスタッフの皆様ありがとうございました。

井頭公園探鳥会に参加して

弘実さと子（会員）

寒波が続きお天気が心配でしたが、当日は快晴で風も弱く探鳥会としては最適な日となりました。参加総数57名（一般参加者26名）で、バスと3台の乗用車に分乗して8時に出発しました。

車の中から筑波山をみると、春のように（？）霞んで見え、今年の寒さが嘘のようだ。今日はいつもとより暖かい。井頭公園で車から降りると、シロハラがすぐ近くの地面に降りて迎えてくれました。鳥見亭で、鳥情報のレクチャーを受け、全員を4班に分ける。私の班はCグループで、一般参加者の大人5名と小学2年生の男の子2名を含めて総数15名。中央ポート池を右岸から出発し、池を一周するコースになった。発見した鳥の種類を競い、一番多かった班に賞品が出るとの事で、それぞれの班は張り切ってスタートしました。

私達の班もスタートしたが、ポート池でミコアイサなどの水鳥を観察したり、周りの鳥を探したり、説明したりと一ヶ所で時間がかかってしまった。男の子たちが「絶対カワセミやルリビタキを見つけよう」と話をしながら林の中に入る。その時、カワセミが木々の間から日差しに反射してコバルトブルーの

背中を見せてくれた。「見たい鳥がすぐ現れたから幸先がいいね。きっとルリビタキも見られるかもしれないね。」といいながら歩いていると、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラなどの混群に遭遇しました。ピンズイやジョウビタキを見たり、鮮やかな青いルリビタキもゆっくり観察する事が出来ました。「ぼくたち、見たかった鳥が見られて良かったね。この分だと赤い鳥や黄色い鳥も見つかるかもしれないね！」といいながら探鳥を続ける。

鳥を見ているといつの間にか昼食時間。お弁当を食べていると、ルリビタキやシロハラが現れた。さっそく双眼鏡を取り出して観察開始。ゆっくりお弁当を食べる時間もない。帰りのコースで、ベニマシコの群れと遭遇。望遠鏡で見せてもらおうと、胸から腹は紅色で思ったほど鮮やかでは無かったがとてもきれいな鳥だ。男の子たちがカワセミに夢中だったため、何回も見ることが出来た。すぐ目の前でカワセミを見た時は感動。最後に、男の子が木の枝に止まっているアオジを見つけた。黄色い腹がはっきりして、アオジってこんなに黄色だったっけと改めて鳥の羽色の変化には驚きです。光によって色々な色にみえるので、鳥を色で見分けるのは難しいことが改めてわかった。

沢山の目で探したので、39羽の鳥を見つける事が出来ました。コクマルガラスとミヤマガラスの群れを見つけたのですが、はっきり言えるほどの知識が無く残念でした。最後に男の子のお母さん達に感謝されて、とても楽しい一日でした。小学2年生の男の子たちは将来鳥博士になるだろうとちょっぴり期待した私でした。

【幹事報告】

<確認された鳥> カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、ノスリ、オオバン、ウイナ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、ヒヨドリ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ツグミ、シロハラ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、

ハシボソガラス、ハシブトガラス、ミヤマガラス 計 46種

<参加者>宮下三禮、染谷迪夫、田中功、古賀嗣郎、古賀道子、山田哲生、木村稔、野口洋子、池田日出男、池田紀子、小林博之、小林美智子、大久保陸夫、間野吉幸、金子幸子、船津登、田丸喜昭、弘美さと子、村松寿夫、小玉文夫、桑森亮、松本勝英、北原建郎、鈴木静治、松下勝子、金子雅章、金子智恵子(幹事)猪爪敏夫、小林寿美子、野口隆也、六角昭男 計 31名
(一般参加の方のお名前が割愛しました)

清里高原探鳥会

2月18日、19日

佐久、凍る池でスケートをする 鴨を見て楽しむ

古出洋子

2月18日(土)の朝、昨夜からの雪で真っ白の我孫子を今井観光のバスで出発しました。幸い天気は快晴でした。参加者は18名のうち1名不参加となり17名の探鳥会です。サロンカーの後部座席は早くも賑わいました。スカイツリーや冠雪の雄大な富士山を眺めながら、双葉SAで味はまいちの大盛りのほうとう等を食べ宿へ。こちら清里は思いのほか雪は少なく、ペンションに入る直前にタイヤにチェーンをつけるくらいでした。宿のご主人が出迎えてくれ、荷物を部屋に運び、まず探鳥。

1F 食堂の南窓から庭を見ると、キジバトが1羽ずうっと動かずにいました。雨覆の羽縁は赤色をしており、あまりにも動かないので病気なのかしらと思われる程でした。上空から小鳥の群れが降りるようにやってきました。頬に黒斑のないニュウナイスズメやシジュウカラ、カワラヒワ等。スズメも混じっていて、初めてニュウナイスズメをみる私にも、その違いがはっきりと判りました。少し細身のスマートなスズメです。木立の間をこちらにゆっくりとキジがやってきました。陽に照らされて胴も尾羽も輝いています。一同歓声を上げカメラを持った人は構えますが、木の幹の向こう側で全容が見えません。

しかし、あのキジの赤や青がキラキラしていて、こんなに近くでしかもじっくりと見られるなんてとても幸福です。ゆっくりゆっくりと近づいて来ます。ここで宿のご主人より忠告がありました。「室内といえ、あまり動くと野鳥が警戒するので静かに座って見てください、また外に出ても南側に出ないてください」と。

こうして1時間ほどペンションの庭で鳥見してから「今年はいまはあまり野鳥がいませんが」と前置きの元、ご主人の車に幹事の鈴木さんが乗り先導することになり、防寒準備を完璧にして野辺山高原に探鳥に出かけました。いままでの景色と変わり、あたり一面真っ白です。道路も周辺も分からないような場所でバスを降りました。間野さんの下げた温度計が-7になりました。雪質はパウダー状、粉雪がばらつき、歩くとキュツキュと鳴る。「この辺でコミミズクをよく見かけたのですが、今日はいませんね」とご主人。残念ながら、あまり鳥を見ることができず、しかし-7の世界を体感し宿へ帰りました。

女性から順次入浴を済ませ、隣室の2人は疲れた様子なので、夕食の整うまで同室の3人で雑談をしていました。夕食は洋食で量も質も丁度よく、私は残らず平らげてしまいました。この後、片付けられた食堂で車座に卓を囲み、和やかに懇親会が行われました。私も久しぶりに日本酒と赤ワインを少し頂きました。この日本酒はいつもご夫妻で参加される天野さんの差し入れの上等なお酒です。また幹事の六角さんと宿のご主人の誕生日が全く同じという偶然もありました。

翌朝は再び野辺山高原に行く予定でしたが、鳥の出方が少ないので、起床時間も遅らせ、ペンションの周辺および庭での鳥見となりました。朝6時頃、部屋の外が賑やかになってきたので慌てて起床、1Fの食堂に行くと、数人が既に鳥見をしていましたが、まだ朝日が昇らないため、鳥を見極め難いようでした。寒いので、此处にとどまる人もいましたが、私は山住さんと間野さん、野口さん、松本さん達と外に出ました。

すぐにシジュウカラの鳴き声が聞こえて、ブッシュの中に2~3羽戯れていました。ひとけの無い大きな保養所の辺りをツグミが行ったり来たりして、その先の高い梢にコガ

ラがくるくるっと 2 回転ほどしてさっと飛び去ってしまったら、鳥の姿が見えなくなったので、そこから引き返しました。そこには・・・私有地につき此処より立入禁止・・・の看板が。「鳥も人に追われないようにこの奥に逃げ込んだんだね」と言いながら。その先の赤松林にも姿も鳴き声もしませんでした。そこを抜け、左折した所の木の天辺にアオゲラを発見。右を向き左を向き朝日に照らされとても綺麗です。もっと欲をだし少し近づいたら、やはり飛んで行ってしまいました。その後方にドラミングが聞こえたので戻ってみましたが、見ないうちに飛び去りました。その先のメタセコイアのような高い木に 10 羽近くのカワラヒワが飛来、また数羽が加わり、今度はニュウナイスズメに代わり、そこがあたかも小鳥たちの舞台でもあるかのように、加わったり、飛び去ったり、その止まり木の形の良さは、人が設えたと思われるほどで、朝日の中での小鳥たちの様相を存分に楽しむことができました。そこはもう宿のすぐ近くで、食堂で鳥見をしていた人達は、私達の姿が現れたので「あらっ」と思ったようです。

朝食はパン食でした。身支度を整えバスに乗りこもうとしていたら、タンクローリー車が来ていてバスに給油していました。タンクが凍ってしまったとの声もきこえました。

宿のご夫妻の見送りを受けペンションを後にして間もなくバスの警告ブザーが鳴り続け、後部座席の人が後を見たら煙が上がりオイルが沢山漏れているとのこと、火が付いたらかちかち山の狸になってしまうと、大久保さん。停車した場所は上り坂の丁度カーブのところでした。降りて皆漏れたオイルを見ました。運転手さんは、早速ラジエーターを開け、携帯電話でどこかと連絡を始めました。停車した右手は沢になっており、皆すぐに双眼鏡を目に当てました。シジュウカラが鳴きニホンリスもいたと言っています。代わりのバスが来るまで 2 時間近くかかるとのこと、この辺りを探鳥することになりました。気温はそれほど低くなく、バスに戻り防寒着を 1 枚を着て旧道のような坂道を登って行きました。シジュウカラがあちこちで鳴いています。「ここのシジュウカラは好き好きと鳴いているよ」と誰かが言っていました。途

中の電線に太いものが巻きつけられていました。六角さんが「蛇が登って被害を与えないようにしている蛇返しです」と教えてくれました。坂を上りきった辺りでホオジロが綺麗な声で鳴いていました。

その右手は萌木の村で土産物屋、オルゴール博物館、レストラン等があったので、そのレストランで昼食を済ませ代わりのバスをここに回してもらいました。ここで思わぬ 2 大特典がありました。本日のみお 1 人様 1 本のみ半額のバウムクーヘン。また、定食にケーキ付きのセットにすると半額になりますとのこと。このことを知らなかった人に問野さんより「食べなくてもケーキを注文しなさい」との助言があり、皆、半額でおいしい昼食を食べることが出来ました。朝 10 時の気温が - 5 以下なら 50% off の日でした。代わりの地元の山峡バスが迎えに来たので、今井観光のバスから荷物に移しました。大きめで綺麗なサロンカーでした。今井観光の運転手さんは客を乗せないで 1 人で帰らなくてはならないし、今度の運転手さんも夜遅く山梨まで帰らなくてはならないし、2 人とも大変なことだと思ひ遣りました。

八ヶ岳連峰がまばゆく輝いています。さすが地元の運転手さんです。野辺山の JR 最高地点(1,375m)からの眺望、ここで八ヶ岳連峰をバックに記念撮影をし、もう 1 ヶ所、八ヶ岳の他に煙をはく浅間山、瑞牆山・金峰山等が見渡せる場所にバスを止めてガイドしてくれました。車中で誰かが「禍福はあざなえる縄の如し」と言いました。

佐久平に下りた頃には雪は全く見当たらず、暖かくさえ感じられました。佐久東電第一調整池で探鳥するため下車しました。上空にはトビが数羽穏やかに円を描くように舞っていました。入口の木立に淡い色合いのジョウビタキの雌、シメ 3 羽を発見。池は結氷しており、スケートをする格好で歩いている鴨。マガモ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ミコアイサ等と種類も数も非常に多く、しかも間近で見られました。いつも手賀沼では遠くにぼつんと泳いでいる白いものぐらいにしか見えなかったミコアイサが、こんなにも大きかったのだと認識させられました。しかも私にとって初見の鳥が数種いたことです。まず、全てがとがった感

じのカワアイサ雄雌が十数羽、日本野鳥の会軽井沢支部の例会で来ていた人が教えてくれたトモエガモ、周りのカモ類より少し小ぶりですぐりした感じで、雄 1 羽雌 2 羽が縦一列に並んだ時には思わず拍手を送りたいほどでした。池の他の場所でアメリカコガモの雄(アメリカコガモの雄はコガモと比べ肩羽の水平白線はなくて胸側に白い縦線があるが、雌の識別点は知られていない)を、池の横を流れる滑津川の河原でセグロセキレイ、ハクセキレイ、キセキレイを一挙に見つけました。まだ見たこともないスズガモもいたようですが、見逃してしまいました。残念、残念。池を一周し終わった頃には汗ばむほどでした。昼食予定だったおぎのやでトイレを済ませお土産等を買って、車中にて鳥合わせをしました。今回の 2 日間の探鳥で、野鳥 50 種、番外 1 種、その他私の眼には入りませんでした。2 種ニホンリス、ニホンジカが確認されました。こうして探鳥会を重ねることで、私の中の鳥も徐々に増えていきます。今回は初見の鳥が多かったこと、冠雪の峰々の素晴らしかったこと、快晴に恵まれ車の故障をも逃れ無事に帰ってこられたことに感謝します。鈴木さん、六角さん両幹事さんはじめ同行の皆様、ありがとうございました。

【幹事報告】

18 日、雪の野辺山高原はノスリが見られた位で鳥影も殆ど見られませんでした。ペンションの庭はニュウナイスズメの群れ、アオゲラ、アカゲラ、キジ等が見られる程度で例年のように多くの種類の小鳥を見ることができませんでした。19 日はバスの故障で代替バスが来る間の清里萌え木村の峡谷の探鳥でベニマシコ、カシラダカ等が観察され、「寒いほどお得フェア」(朝 10 時 - 5 以下なら半額)を使い土産物・ランチ半額の恩恵を得ることが出来ました。JR 最高地点・野辺山で青い空に白く輝く八ヶ岳の主峰赤岳、富士山、瑞牆山、金峰山を、佐久では煙をまく白い浅間山及び北アルプスの山々を愛でることが出来ました。佐久東電第一調整池は 6-7 割結氷していましたので、カモ類が氷上のヨチヨチ歩きするユーモラスな姿が見えました。結氷していましたがトモエガモ、アメリカコガモ、カワアイサ等の珍鳥を含む多

くのカモ類等が見られ、やっと参加者皆満足することが出来ました。バスの故障の影響で帰着時間が予定より 2 時間遅れ、午後 7 時に我孫子に到着しました。

< 認めた鳥 > カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、アメリカコガモ、トモエガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カワアイサ、トビ、オオタカ、ノスリ、キジ、オオバン、キジバト、カワセミ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、エナガ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 50 種
番外 カワラバト、(その他)ニホンリス、ニホンジカ

< 参加者 > 大久保陸夫、間野吉幸、浅野利幸、渡邊成、中根忠、野口隆也、古出洋子、金子幸子、松下勝子、金子雅幸、山住良子、天野正臣、天野睦子、松本勝英、猪爪敏夫、(担当幹事)六角昭男、鈴木静治 参加者 17 名

北本自然公園探鳥会

3月25日

常盤孝義

3月25日、前日までとは打って変わった好天気。年齢不相応に、浮足だった心境で、北本公園への探鳥会に参加した。同公園は、昔からの自然をいかし、生きものがくらしやすいように、そして人々が自然に親しめるように整えた公園だという。

ピョコンとおじぎをして尾を震わせながら、私達を歓迎してくれたジョウビタキ(オス)。胸から腹の橙色は、町中で見るそれとは大きく異なり、どこまでも鮮やかであった。光量深く、空気の清浄な自然環境のたまものであるのか。どこからか、アオジやホオジロの鳴き声も聞こえてきた。高尾の池は、満々と水を湛え、木々の影を映し出していた。コガモとマガモが、湖面をせわしく行き交い、

残された時間を惜しむかのようにであった。この時期、ここではベニマシコ、クイナ、アリスイ、ヒレンジャクなどに会える可能性が高いという。その飄々とした姿ゆえにか、アリスイの人気は高く、バーダーの関心を集めていた。あの鳥に出会いたいと思ってする探鳥は難しい。昨日まで広い草原の一角にアリスイは見られたという。しばらくその辺りを見張ったが、出会いはかなわなかった。

公園には、大型から小型のさまざまな種類の動植物が生息しているという。林の茂みに、タヌキが現れた。身体を上下してこちらを見やっていた。湿地に分布するアカガエルの卵塊が光線に反射して輝いていた。卵塊は自然度のバロメーターという。公園の生きもの達はそれぞれの環境に適応しながら、自由自在に生きているように見える。

さくらの芽はまだかたいが、うめの開花や、ウグイスのさえずりそして水のぬるみなどに、春の確実な足音を感じられた。私にとって、北本公園は、また、訪ねてみたい新たな魅力のスポットとなった。

【幹事報告】

雨が上がった絶好の探鳥日和の中、ジョウビタキ の出迎えを受けて幸先よいスタートとでしたが、下見ではじっくり見られたお目当てアリスイ、クイナの姿が十分にみられなかったのは残念でした。例年だと満開のエドヒガンザクラが一輪も咲いてないのと、冬の小鳥の少なさが今冬を象徴していました。

数年前と同じ場所にタヌキがいたのは懐かしかった。ちなみに自然学習センターのロビーに展示されていたタヌキ2匹の剥製は、桜堤で交通事故にあったものだそうです。

< 認めた鳥 > カイツブリ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オオタカ、クイナ、バン、キジバト、カワセミ、アリスイ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 32 種 番外ガビチョウ

< 参加者 > 間野吉幸、大久保陸夫、鈴木静治、田中恒雄、中根忠、中根洋子、肥後邦彦、常盤孝義、小玉文夫、古出洋子、宮下三禮、桑

森亮、石渡成紀、船津登、山住良子（幹事）
野口隆也、松田幸保 参加者 17 名

3 月幹事会報告

日時 3 月 11 日（日） 13：30～17：00
場所 水の館 3 F 研修室
議題

1. 総会議案の検討、決定
23 年度活動報告及び決算案
24 年度事業計画及び予算案
 2. 会報 226 号の記載記事について
 3. 検討・報告事項
40 周年記念事業関係
 - ・ 講演会の準備と当日の担当
 - ・ 記念パーティーの当日の設営準備と、担当
 - ・ 記念誌配布先など
配布先などについて、提案し了解。記念誌の在庫は資産として管理し、データ編は間野が、一般編は佐々木が管理する。
 - ・ 写真展
設営準備、発表期間と会場当番（受付、案内）などについて確認した。
バードウィークイベント「Enjoy 手賀沼！」第 23 回バードウィーク手賀沼探鳥会の詳細については、鳥博と打ち合わせ
 - その他
 - ・ あびこ楽校協議会委員に池田日出男会員を推薦（4.1 より任期 2 年）
 - ・ 「民が民を支える仕組み機構モデル事業（ちばの WA！東葛本舗）」に登録、参加。担当間野
 - ・ 「亀成川を愛する会」の依頼により千葉ニュータウン調整池での鳥調査を実施。協力費 5 万円を受領。
- 幹事の退任
現幹事の猪爪敏夫幹事、吉田隆行幹事、松下勝子幹事から退任の申し出があった。欠員補充として、金子雅幸氏が推薦され了承された。尚、猪爪敏夫氏は会報編集員を、吉田隆行氏はホームページ担当を継続する。

また、染谷幹事が事務局の責任者を退任したい意向を表明した。今後、後任

の調整を行う。

鳥 だ よ り

- 1.21 [北新田] コハチヨウ(12) 稲刈り田で採餌
中野久夫
- 1.22 [北新田] ビ (1) 飛翔 中野久夫
- 1.22 [北新田] オカカ(1) 越流堤横柳上
中野久夫
- 1.22 [北新田] コチヨウ`ホ`ウ(1) 田んぼ上を低
空飛翔 中野久夫
- 1.23 [北新田] コハチヨウ(9) 耕起田で採餌
中野久夫
- 1.24 [浅間前] ノリ(1) 道脇の電柱上にとま
る 鈴木静治
- 1.24 [浅間前] コチヨウ`ホ`ウ(1) 道路脇の電柱
より飛び立つ 鈴木静治
- 1.24 [浅間前] チョウ`ホ`ウ(1) 野球場の電柱
にとまり休む 鈴木静治
- 1.24 [北新田] コハチヨウ(10) 雪の積もった耕
起田で採餌 中野久夫
- 1.25 [下沼田] ノリ(1) 葦原の高木から田へ
飛び立つが、カラスの急降下の攻撃をう
ける 鈴木静治
- 1.25 [浅間前] チョウ`ホ`ウ(1) キジ を追い
停空で飛行 鈴木静治
- 1.25 [相島] ノリ(1) 田の杭にとまる
鈴木静治
- 1.25 [中沼田] ノリ(1) ミマガ`ラスと仲良く田の
杭にとまる 鈴木静治
- 1.25 [中沼田] コカカ`ラス(約 10) 電線にミマガ
`ラスととまる、淡色型 1羽 鈴木静治
- 1.26 [下沼田] ビ (1) 田の十空を巡回する
鈴木静治
- 1.26 [上沼田] チュウ(1) 田の上を低空で飛行
鈴木静治
- 1.26 [上沼田] チョウ`ホ`ウ(1) 上空でカラスに追
い回される 鈴木静治
- 1.26 [上沼田] ノリ(1) 上空でカラスに絡まれる
鈴木静治
- 1.26 [発作] ノリ(1) 鉄塔にとまりカラスとら
み合う。その後カラスは飛び去る
鈴木静治
- 1.27 [古戸] ノリ(1) 葦原の中の木にとまる
鈴木静治
- 1.28 [千間橋] チュウ(1) 手賀川上を低空飛行
鈴木静治
- 1.28 [千間橋] ノリ(1) 手賀川上空を飛ぶ
鈴木静治
- 1.28 [発作] ノリ(1) 鉄塔にとまりやすむ
鈴木静治
- 1.31 [千間橋] ミヅ`ク(2) 小川の葦の繁み、二
番穂の田を滑空し獲物を探す 鈴木静治
- 2.01 [光ヶ丘 広池学園] オカカ(1) 14:44、増
尾方向から出現し、新松戸方向に通過
飯泉仁・飯泉久美子
- 2.01 [北新田] ノリ(1) 杭上 中野久夫
- 2.04 [下沼田] ノリ(1) 農道の電柱にとまる
鈴木静治
- 2.04 [千間橋] ハブ`サ(1) 鉄塔上部にとまり
休む 鈴木静治
- 2.04 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去
中野久夫
- 2.08 [染井入新田] ミカ` (1) 沼の中の杭にと
まり休む 鈴木静治
- 2.08 [染井入新田] チョウ`ホ`ウ(1) 田の上で
停飛し獲物を探す 鈴木静治
- 2.09 [中里新田] チョウ`ホ`ウ(1) 電線に止ま
る。飛翔。 大久保陸夫
- 2.09 [岡発戸新田] ミカ` (2) 沼上を低空で飛
び五本松公園上空へ飛び去る 鈴木静治
- 2.09 [下沼田] チョウ`ホ`ウ(1) 電柱にとまるが、
ルポ`カ`ラスに攻撃され飛び去る 鈴木静治
- 2.09 [上沼田] チュウ(1) 田の上でチョウ`ホ`ウ
を追いかける 鈴木静治
- 2.09 [上沼田] チョウ`ホ`ウ(1) チュウに追われ
る 鈴木静治
- 2.09 [箕輪] チョウ`ホ`ウ(1) 道路上空を飛ぶ
鈴木静治
- 2.09 [北新田] ノリ(1) 電柱から飛去 中野久夫
- 2.09 [岡発戸新田] アカ`シヤ`サ(1) 岸の葦の
繁みで獲物を狙う 鈴木静治
- 2.09 [上沼田] コカカ`ラス(5) 田起し後の田で

- 採食 鈴木静治
- 2.10 [岡発戸] ヒ⁶ (1) 上空を鳴きながら飛ぶ 鈴木静治
- 2.10 [岡発戸] ヘ⁶ニシコ(1) 葦・灌木の小枝にとまる 鈴木静治
- 2.11 [岡発戸] ヤカ⁶ラ(1) 木の梢にとまる 鈴木静治
- 2.11 [岡発戸] オカ⁶(1) 葦原の上を滑空する 鈴木静治
- 2.11 [中沼田] ノリ(3) 田の畔・杭にとまるが、やがて飛び立つ 鈴木静治
- 2.11 [北新田] ヌシ⁶ (1) 4号排水路で 中野久夫
- 2.12 [光ヶ丘 広池学園] オカ⁶(1) 10:01、上空をカスに追尾され増尾方向から新松戸方向に移動 飯泉仁
- 2.12 [岡発戸] オカ⁶(1) キジバトを追うが取り逃がし、木の枝にとまる 鈴木静治
- 2.12 [千間橋] オカ⁶(2) 川岸の葦の先にとまる 鈴木静治
- 2.12 [都部] ヲウゲ⁶ノウ(1) 森の上を飛ぶ 鈴木静治
- 2.12 [手賀沼] ミカ⁶ (2) 上沼1、下沼1 染谷迪夫・北原建郎・田中功
- 2.13 [浅間前] ノリ(1) 田の電柱にとまりまわりを見渡す 鈴木静治
- 2.13 [北新田] オカ⁶(1) 越流堤横柳上 中野久夫
- 2.15 [酒井根 6丁目 下田の森] オカ⁶(1) 10:40、屋敷林の枝に飛来 飯泉仁
- 2.15 [北新田] ヌシ⁶ (1) 4号排水路で 中野久夫
- 2.16 [古戸] ノリ(1) 高木にとまり休む 鈴木静治
- 2.16 [江蔵地] ノリ(2) 葦原の木の枝に2羽がとまり、ピーエーと鳴く 鈴木静治
- 2.16 [江蔵地] ヘ⁶ニシコ(1) 葦の穂先にとまる 鈴木静治
- 2.17 [中里新田] ヲウゲ⁶ノウ(1) ホバリング 大久保陸夫
- 2.17 [江蔵地] ハヤ⁶サ(1) 鉄塔頂上にとまる 鈴木静治
- 2.17 [江蔵地] ヒ⁶ (1) 河原で獲物を捕らえ芝生上で食べる。ルホ⁶カ⁶ラ2羽が近寄る。 鈴木静治
- 2.17 [江蔵地] ヘ⁶ニシコ(1) 飛んで来て草の繁みに隠れる 鈴木静治
- 2.17 [千間橋] チュ⁶ル(1) 田の上を低空で滑空する 鈴木静治
- 2.17 [発作] ノリ(1) 田の杭にとまり、時々田の上を低空で滑空 鈴木静治
- 2.17 [北新田] ヒ⁶ (1) 越流堤横から飛去 中野久夫
- 2.18 [岡発戸新田] アカ⁶シヤ⁶ (1) 遊歩道沿い沖に係留の漁船上にて、小魚採食。 田中功
- 2.19 [酒井根 5丁目] オカ⁶(1) 10:34、カスに追尾され北北東方向から西方向に移動 飯泉仁
- 2.19 [酒井根 6丁目 下田の森] アカ⁶ラ(1) 10:15、木の幹でドラミング 飯泉仁
- 2.19 [片山 手賀の丘公園] ヤカ⁶ラ(1) 13:08、木の枝に鳴いていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.19 [片山新田先手賀沼] ミカ⁶ (1) 14:28、沼のすだてに止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.19 [片山新田先手賀沼] ヲウゲ⁶ノウ(1) 15:34、上空を移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.19 [片山新田先手賀沼] ヘ⁶ニシコ(2) 15:40、葦原の中を鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.19 [片山新田先手賀沼] ヒ⁶ (1) 16:03、上空を旋回 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.20 [下沼田] ノリ(1) 鉄塔下部より飛び出し、田の杭にとまる 鈴木静治
- 2.20 [江蔵地] ヘ⁶ニシコ(2) 柳、下草にとまり鳴く。ヘ⁶カ⁶ラの実を食べる 鈴木静治
- 2.20 [布瀬新田] ヒ⁶ (1) 夕暮れ時、川の上高く飛ぶ 鈴木静治
- 2.20 [北新田] ヌシ⁶ (1) 4号排水路で 中野久夫
- 2.21 [江蔵地] ヘ⁶ニシコ(1) 柳の細い枝にとまる 鈴木静治
- 2.21 [北新田] ノリ(1) 樹上 中野久夫
- 2.21 [北新田] ヌシ⁶ (1) 4号排水路で 中野久夫
- 2.22 [北新田] ウゲ⁶イ(2) ミ原で囀り 中野久夫
- 2.24 [布佐平和台] ハヤ⁶サ(1) 住宅上空を風に乗るように飛ぶ 鈴木静治
- 2.26 [つくしヶ丘] ツミ(1) 9:51、木の枝に止まり、周囲を警戒した後、西方向に渡去 飯泉仁
- 2.26 [手賀新田] ノリ(1) 15:50、電柱に止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
- 2.26 [手賀新田] ヲウゲ⁶ノウ(1) 16:05、電柱に

- 止まっていた 飯泉仁・飯泉久美子
 2.26 [手賀新田] ヒ (1) 16:06、上空を巡回
 飯泉仁・飯泉久美子
 2.26 [北新田] コハチヨウ(15) 南東方向に飛翔
 中野久夫
 2.27 [千間橋] ノリ(2) 飛んできて電柱・電線
 にとまる 鈴木静治
 2.27 [大森] ヒ (1) 強風を利用し上空高く
 舞い上がる 鈴木静治
 2.27 [発作] チュウ(1) 川の葦原上を低空飛行
 する 鈴木静治
 2.28 [上沼田] チョウゲ ンボウ(1) 田の上を飛び
 電柱にとまる 鈴木静治
 2.28 [中沼田] ノリ(1) 田の杭にとまる
 鈴木静治
 3.03 [北新田] オカカ(1) 河川敷柳上 中野久夫
 3.08 [岡発戸新田] ヒ (1) 上空高く巡回し
 ながら飛ぶ 鈴木静治
 3.08 [下沼田] ハブサ(1) 田の上空を飛び、鉄
 塔上部にとまる 鈴木静治
 3.08 [中沼田] ノリ(1) 田の杭にとまる
 鈴木静治
 3.08 [中沼田] チョウゲ ンボウ(1) 飛んできて畑
 で獲物を探す 鈴木静治
 3.08 [中沼田] ヒ (1) 上空高く飛ぶ
 鈴木静治
 3.08 [北新田] チョウゲ ンボウ(1) 電柱から飛去
 中野久夫
 3.08 [北新田] クサヅ (3) 4号排水路で
 中野久夫
 3.08 [岡発戸新田] チュウ(1) 葦の上を低空で
 飛び獲物を狙う 鈴木静治・谷山晴男
 ・猪爪敏夫・間野吉幸
 3.08 [中沼田] コカカ ラス約 10ミヤガ ラスの群れ
 と行動を共にする 鈴木静治
 3.10 [下沼田] ノリ(1) 鉄塔下部にとまる
 鈴木静治
 3.10 [発作] ノリ(1) 鉄塔上の電線にとまる
 鈴木静治
 3.10 [布瀬] ハブサ(1) 鉄塔頂上にとまる
 鈴木静治
 3.11 [岡発戸新田] ハブサ(1) 沼上を一直線
 に飛ぶ 鈴木静治
 3.11 [上沼田] チョウゲ ンボウ(1) 上空で加入に追
 われる 鈴木静治
 3.11 [上沼田] ヒ (1) 上空を輪を描きなが
 ら飛ぶ 鈴木静治
 3.11 [中沼田] ノリ(1) 田の杭にとまる
 鈴木静治
 3.11 [中沼田] 材カカ(1) 農道・小川脇の葦に
 とまる 鈴木静治
 3.11 [手賀沼] ミコ (1) 上沼 1 染谷迪夫
 ・木村稔・田中功・蒲田知子
 3.11 [手賀沼辺] ヒ (1) 上沼 1 染谷迪夫
 ・木村稔・田中功・蒲田知子
 3.11 [手賀沼辺] ハブサ(1) 上沼 1 染谷迪夫
 ・木村稔・田中功・蒲田知子
 3.12 [片山] ヒ (1) 上空で鳴く 鈴木静治
 3.12 [布佐平和台] ウグ 儀(1) 宅地の庭で囀
 り始める 鈴木静治
 3.14 [片山新田先手賀沼] ミコ (1) 11:52、足
 に魚をぶら下げて手賀沼大橋方向から出
 現 飯泉仁
 3.14 [片山新田先手賀沼] ヒ (1) 12:48、上空
 を巡回 飯泉仁
 3.14 [箕輪新田先手賀沼] ハイチチュウ(1) 10:46、
 蓮田の中から出現しルボウ カ ラスに追尾さ
 れ、東方向に渡去 飯泉仁
 3.14 [箕輪新田先手賀沼] オハチヨウ(1) 10:46、
 蓮田の中で休んでいた 飯泉仁
 3.14 [江蔵地] ヒ (1) カラスに追いかけら
 れる 鈴木静治
 3.14 [小文間] ハイチチュウ(1) 葎原・斜面林上
 を飛びまわる 鈴木静治
 3.15 [江蔵地] チョウゲ ンボウ(1) 上空で停飛し
 ながら飛ぶ 鈴木静治
 3.15 [江蔵地] ハイチチュウ(1) 上空低く真直ぐ
 飛ぶ 鈴木静治
 3.15 [江蔵地] ヒ (1) 上空高く飛ぶ
 鈴木静治
 3.15 [江蔵地] ノリ(1) 上空高く巡回する
 鈴木静治
 3.15 [江蔵地] チュウ(1) 葦原上を低空飛行す
 る 鈴木静治
 3.15 [江蔵地] ハブサ(1) 上空を一直線に飛
 ぶ 鈴木静治
 3.20 [片山新田先手賀沼] 材カカ(1) 14:53、葦
 原の中を鳴きながら移動 飯泉仁・飯泉久美子
 3.20 [北新田] クサヅ (1) 4号排水路で
 中野久夫

今回寄せられた鳥の全種名

計 37 種

<山野の鳥>

合計 82 種

アオジ、アカゲラ、アカハラ、ウグイス、エナガ、オオタカ、オナガ、カシラダカ、カワラヒワ、キジ、キジバト、コクマルガラス、コゲラ、コチョウゲンボウ、コミミズク、シジュウカラ、シメ、ジョウビタキ、シロハラ、スズメ、セグロセキレイ、セッカ、タヒバリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、ツグミ、ツミ、トビ、ハヤブサ、ノスリ、ハイイロチュウヒ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ビンズイ、ベニマシコ、ホオアカ、ホオジロ、ミヤマガラス、ムクドリ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ルリビタキ

計 45 種

<番外種>

カワラバト、コジュケイ、バリケン

今回の投稿者の総投稿件数

飯泉久美子	1
飯泉仁	356
飯泉仁・飯泉久美子	198
大久保陸夫	3
鈴木静治	399
鈴木静治・谷山晴男	
・猪爪敏夫・間野吉幸	45
染谷迪夫・北原建郎・田中功	26
染谷迪夫・木村稔・田中功・蒲田知子	31
田中功	2
中野久夫	39
間野吉幸	18

総計 1118

(浅井 久)

<水辺の鳥>

アオサギ、アカガシラサギ、イソシギ、ウミネコ、オオジュリン、オオハクチョウ、オオバン、オカヨシガモ、オナガガモ、カイツブリ、カルガモ、カワウ、カワセミ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、ゴイサギ、コガモ、コサギ、コチドリ、コハクチョウ、コブハクチョウ、セグロカモメ、ダイサギ、タゲリ、タシギ、ハクセキレイ、ハジロカイツブリ、バン、ヒドリガモ、ホシハジロ、マガモ、ミコアイサ、ミサゴ、ミミカイツブリ、ユリカモメ

5月幹事会開催

日 時 5月13日(日) 13:30~
場 所 近隣センターこもれび 調理室
議 題

24年度下期行事予定
会報 227号の記載記事について
創立 40周年記念各事業の報告
その他(議題のある場合は事務局まで
連絡ください。)

手賀川周辺・田圃のミヤマガラス、コクマルガラス

鈴木静治

日本ではカラス科は通常 10 種、珍鳥を含めると 12 種になりますが、ここでは冬鳥として渡ってくるミヤマガラスとコクマルガラスについて調べてみました。

手賀川周辺の冬、二番穂の残る田圃では最近 1 ~ 2 年、数百羽のミヤマガラスの群れが見られるようになり、今季より群れの中に淡色型のコクマルガラス(黒丸鴉)も観察できるようになりました。数百の黒いミヤマガラス、コクマルガラスの中から白黒(淡色型)のコクマルガラス 1 羽を探し出た時はホッとすると同時に鳥見をしていて良かったというマニア特有の幸福感があります。まさに少年時代昆虫採集で珍蝶をみつけた心のときめきに似た気分です。つぎに、ミヤマガラス、コクマルガラスについて文献調査した結果と手賀川周辺の田圃での観察した様子を記載してみます。

ミヤマガラスはユーラシア大陸の中緯度地方より冬鳥として飛来します。ハシボソガラスよりやや小さく、嘴の根元が白く、カラララ・カラララと細く弱い声で鳴き、数十～数百以上の群れで移動します。

1970年代末に九州・山陰で観察され始め、1980年中頃には日本海側を西から東に分布を拡大、1990年代には東日本を北から南へ分布を拡大し、2006年には東京都を除く全国で観察されるようになりました。

コクマルガラスもミヤマガラス同様に冬鳥として飛来します。ハト大の可愛いカラスで嘴は小さく、キョン・キャー又はキョーとカラスらしからぬ声で鳴きますので居ればすぐわかります。若鳥は全体が茶色かかった黒色(暗色型)で、成鳥は頸の後ろから腹にかけて白色(淡色型)と暗色型があるといわれています。淡色型は暗色型に比べ極端に少ないようです。コクマルガラスの小さな群れは、ミヤマガラスの大きい群れとともに行動します。

手賀川周辺で私が初めて気がついたのは2010年3月5日ミヤマガラス2羽とコクマルガラス(暗色型)1羽が柏市・水道橋の田圃で採食する様子を見た時です。この2種に気がついたのは、これより前2009年2月と2010年1月に群馬県・板倉町でミヤマガラスの大群とコクマルガラス(暗色型と淡色型)を観察していたこと、遠くからではありませんがコクマルガラスがミヤマガラスに比べ明らかに小さかったからです。2008年以前にも手賀川周辺に飛来していたかもしれませんが、当時私には判別できませんでした。なお本会会員の中野さんにお聞きすると、北新田ではそれ以前に淡色型を観察されたことがありますとのことでした。

2011年は3月～4月に柏市・千間橋、我孫子市・中沼田の田起こし後の田圃、二番穂の田圃で採食するミヤマガラスを数十から多い時は200～300羽観察していました。コクマルガラスの淡色型はいないかと探したが見つかりませんでした。

2012年には、1月～3月現在、千間橋、下沼田・中沼田・上沼田、都部で数十～多い時で500羽位のミヤマガラスが観察され、ミヤマガラスの群れの中にコクマルガラスの十数羽の小さな群れが見られることがあります。淡色型が1羽、暗色型ですが首輪のように部分的に白くなりかけの1～2羽、殆どは茶色がかった黒色の暗色型です。コクマルガラスは小さいので、大きいミヤマガラスのなかにいて田圃で採食している時は見つけにくい。幸運にも農道の電線、野球場のバックネットにとまっている時に出会えば淡色型は双眼鏡があればすぐわかります。

今年は本会員の久保さん、渡邊さん、川上さん等多くの方が観察されていますが、東京辺りからもコクマルガラスの淡色型を探している親子に会うこともあります。

これら2種のカラスを観察していると、色々興味深いこと・疑問が出てきます。

ミヤマガラスについては、

1)風のある日、斜面林の上空で大きい群れが風乗りを楽しんでいるように飛びまわっていることがあります。大きな群が魚群、ムクドリの大群のように分裂したり、合体し竜のように飛ぶ様子は圧巻で見ているだけでも飽きません。都部～湖北台～中里市民の森辺りに塹があるのででしょうか。

2)ミヤマガラスのいる田圃には杭の上にノスリがとまっていることが多いのですが、ハシボソガラスの場合2羽位でノスリを猛然と攻撃しますが、ミヤマガラスの場合ノスリはのんびりととまっています。ノスリも大陸から渡ってくるので相性が良いのでしょうか。

3)ミヤマガラスの群れに混じってハシボソガラスが田圃で採食していることがあります。ミヤマガラスの大群が現れるようになると、従来いたハシボソガラスの大群がみられなくなるような感じがします。ハシボソガラスは塹から10km程度の行動範囲があるといわれていますので、ミヤマガラスのいない別のところで採食しているのでしょうか。

コクマルガラスについては

1)田圃ではミヤマガラスの大群中の端の方にコクマルガラスの小群が混ざって採食していま

すが、大きいミヤマガラスと二番穂に隠れてコクマルガラスが見えません。遠く畦の上に淡色型のコクマルガラスが乗るとよくわかります。また、田圃で食べ飽きると、コクマルガラスは群れで電柱にとまりますので、その時は淡色型がよく目立ちわかります。飛び立つときはミヤマガラスの大群と一緒に飛ぶので、淡色型をその中から見つけ出すのは難しいのですが、飛翔写真を撮ってみると、コクマルガラスはミヤマガラスに比べ羽ばたきが速いのがわかります。弾丸のような飛び方で、まるで小さいタカのようなようです。このようにコクマルガラスはミヤマガラスと一緒に行動することで、身を守っているのでしょう。

2)コクマルガラスも、ハイイロガンの刷り込み現象(生まれて初めて見た者を親と思う)で有名なコンラート・ローレンツが 1920 年代ウィーン近郊のアルテンベルグで飼育・観察したニシコクマルガラスのような家族性・社会性をもっているのでしょうか。社会的順位は決まっております。下位の鳥を守る。面白いことに下位の雌が上位の雄と番になると、雌は上位の雄の順位まで昇進します。そのことは、構成員全員がすぐ知るといえるものです。また、ニシコクマルガラスでは「一緒に飛べ」の鳴き声はキャア(遠くへ行こう)、キュウ(家へ行こう)の違いもあっていいます。

以上、今冬、手賀川周辺で見られるミヤマガラスとコクマルガラスについて記載しましたが、3月～4月まで見られると思いますので、さらに観察するともっと面白いことが分かると思います。

なお、本文を書く際、下記の文献、本を参考にしました。

- ・高木憲太郎 2010 日本におけるミヤマガラスの越冬分布の拡大 Bird Research 6 :A13-A28
- ・コンラート・ローレンツ/日高敏隆訳 1980 永遠にかわらぬ友 動物行動学入門/ソロモンの指環 早川書房:54-105

市民手賀沼探鳥会

2012.1.29 手賀沼遊歩道にて行いました。当日は晴でしたが風が強く寒い日でした。

この探鳥会は一般市民を対象にした我孫子市環境レンジャーと当会共催の探鳥会で、探鳥の楽しさや野鳥への理解を深めて頂くことを目的に毎年開催しています。

参加者 48 名を 4 つの班に分け、当会会員と環境レンジャーが観察した野鳥の種名の紹介や見分け方、雌雄の区別、鳴き声の聞き分け等参加者にきめ細かく対応しました。

認めた鳥：32 種。参加者：一般市民 25 名、レンジャー 13 名、当会会員 10 名 計 48 名
(間野吉幸)

新会員紹介 (4月1日入会)：蒲田知子(我孫子市)、今村之明(柏市)、小笹彰(柏市)

ご寄付：類地佑子氏、小野勇亮氏よりご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

お詫び：225 号掲載の沼沼探鳥会感想文(天野睦子氏)に一部脱落がありました。ここに深くお詫びいたします。なお、次 227 号にて全文を再掲載の予定です。

ほーほーどり No. 226 (2012年5～6月号)

発行 2012年5月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000 円(大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料)